

### 防災・救急の意識を高めて

# 安全・安心なまちへ

～防災・救急特集～

## 地震の備えは万全に

地震はいつ襲ってくるかわかりませんが、被害を最小限に抑えるため、日ごろから地震の安全対策を行うとともに、地震発生時の対処法を身に付けてください。



毎年9月1日は「防災の日」、9日は「救急の日」です。これを機に、みなさんも安全・安心なまちづくりに向け、防災・救急への意識を高めましょう。

### 地震への安全対策

#### ●家族一人一人の役割分担の決定



日常生活における災害を防ぐための役割と、災害が起きたときの役割を家族で話し合う

#### ●家屋の危険箇所チェック



家具が倒れやすい場所など、家屋の危険箇所を事前に確認する

#### ●安全なスペースの確保



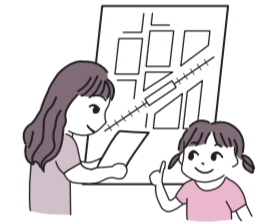
出入りが少ない部屋に家具を置く、家具の転倒防止措置を施すなど、安全なスペースを確保する

#### ●非常持ち出し品のチェック



必要な品がそろっているか確認する(例：非常食・水・貴重品・携帯ラジオ・救急医薬品・懐中電灯・衣類など)

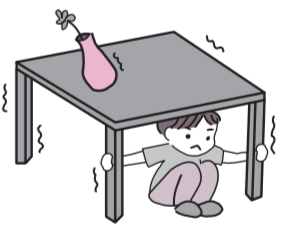
#### ●災害時の連絡方法と避難場所の確認



家族が離れ離れになった場合の連絡方法と避難場所を確認する

## 地震発生時の対処法

#### ●身の安全の確保



家具などが倒れる危険があるため、机の下などに潜り込む

#### ●素早い火の始末を



すぐに火が消せる場合は、ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜く

#### ●非常脱出口の確保



揺れによって建物がゆがみ、出入り口が開かなくなる場合があるため、ドアを開けて逃げ口を確保する

#### ●出火したらすぐ消火



「火事だ!」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め、消火に努める

#### ●外へ逃げるときは慌てずに

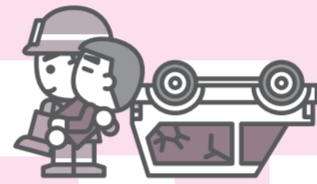


家屋の倒壊や火災の危険があり、やむを得ず外へ出る場合は、窓ガラスなど落下物に注意して避難する

## 災害現場で活躍する救助工作車

市消防本部の救助工作車は、地震・火災・交通事故など、災害時における人命救助活動に必要な資機材を110種類以上積載しています。ここでは、災害現場で活躍する救助工作車と、その資機材について紹介します。

消防署(☎231・0355)。



### 市消防本部救助工作車の概要

- ・車両総重量 11.27ト
- ・全長 7.80m
- ・全幅 2.30m
- ・全高 3.21m
- ・乗車定員 6人



### 救助隊長インタビュー

今回は、市消防本部消防署の救助隊長(神部和典)さん(かんと)と話を聞きました。「救助隊の活動は、主に火災や交通事故現場です」と神部長。救助隊は、市内で発生した火災への対応や、交通事故で車に挟まれたり、閉じ込められたりしている人を救助することが多いそうです。

一方で、「親がベランダに出ているときに、子どもが家の内側から鍵を閉めてしまった」「子どもが車の内側から鍵を閉めてしまい、ド

アを開けることができないなど、日常生活でのトラブルも多いとのこと。」「ちょっとした不注意で起こる事故もありますので、施設の際には気を付けてください」と話します。

現場での隊長の仕事は、救助の方法やどの資機材を使うかを判断し、隊員に指示すること。「災害の規模や内容はその都度異なるため、臨機応変に指示する必要があります」と神部長。

救助隊長は、大地震・大規模火災も含め、さまざまな災害に迅速かつ的確に対応できるように、日々「的確に対応できるように、日ごろから体力作りや、救助工作車の資機材の取り扱い訓練などを欠かしません。また、訓練により技術をしっかりと身に付けておくことで、実際の現場で冷静に救助活動を行うことができるようになります。」



▲神部和典救助隊長。救助隊配属4年目。今年4月から隊長を務めています

「普段から、体と精神力を鍛えておかなければならない厳しい現場ですが、これからは市民のみなさんが安全・安心に暮らせるように頑張ります」と力強く話してくれました。

## 9月9日は「救急の日」～救急車の正しい利用を～

#### ◆救急車出場件数は増加

市消防本部所有の救急車(4台)は、24時間体制で救急事故に対応しており、その出場件数は年々増加しています。平成19年中は5555件で、前年と比較して146件の増加です。また、搬送された5238人のうち、約半数の2771人は、入院を必要としない軽症の患者でした。

出場件数の増加は、現場到着までの時間が長くなり、1分1秒を争う生命の危険を伴う患者への対応が遅れてしまっています。

#### ◆緊急性が高いかももう一度考えて

総務省消防庁の世論調査(18年実施)によると、救急車を呼んだ理由の大半は、「自力で歩ける状態ではなかった」(52%)、「生命の危険があると思った」(28.8%)など緊急を伴うものですが、一方で「夜間・休日で診察時間外だった」(16.6%)、「どこかの病院に行けばよいかかわらなかつた」(8.1%)、「救急車で病院に行った方が優先的に診てくれると思った」(4.1%)など、救急車を呼ぶ理由として不適切な回答もありました。

緊急性が低い場合は、救急車を呼ぶ必要があるかどうかもう一度考え、救急車の正しい利用をお願いします。

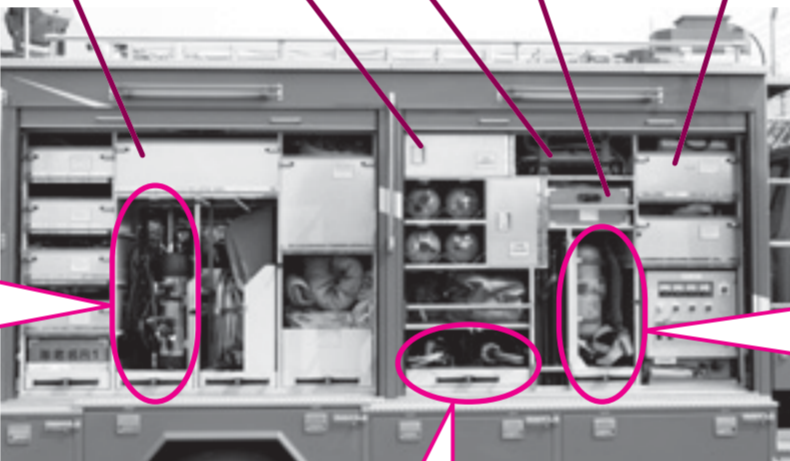
消防本部消防総務課(☎231・0921)。

#### ◆インパルス銃

空気の圧力と少量の水で消火する。初期消火に有効



- バスケット担架 救命浮輪 救命胴衣
- 空気式 救命索発射銃
- 潜水器具一式(マスク・足ひれ)
- 平担架
- 応急処置用セット(救急セット・AED等)



#### ◆油圧切断機/油圧スプレッダー

油圧を利用し、交通事故車両のドアやフレームなどの金属を切断したり、押し広げたりして、車に閉じ込められた人を救助する



#### ◆空気式救助器具一式

ゴム製の空気マットが膨らみ、トラックなど重い物を持ち上げて、重量物の下に挟まれた人を救助する。重量・高さによって使い分けができるよう、サイズも4種類常備している



#### ◆熱画像直視装置

赤外線を感知し、その温度差によって、火災現場の煙の中や暗闇にいる人などを確認する



#### ◆画像探索機II型

建物倒壊などで崩れたがれきの下に人が残っているかどうかを、棒の先に付いたカメラで探索し、モニターで確認する。音声も感知することもできる



- 金属製ワイヤーはしご
- 空気式救助マット
- 三脚、防じん・防毒マスク等



- ハンマードリル
- 削岩機
- ペダルカッター
- 投光器一式
- 発電機
- エンジンカッター

## 3つの計画と危機管理基本方針で災害などに対処します

### 危機管理基本方針～危機事態に対処するための体制を整備～

市では、災害など危機事態の被害を最小限に抑え、市民のみなさんの生命・身体・財産を守ることを目的に、「地域防災計画」「国民保護計画」「危機管理計画」の3つを策定しています(下記参照)。また今年4月には、これらの計画で想定される危機事態に迅速・的確に対処できるよう「危機管理基本方針」を定めました。

同方針では、危機発生時は常に最悪事態を想定し、初動体制を整えること、発生後に必要な情報が必要なときに必要な人に届くシステムを構築すること、職員の教育・訓練を実施することなどを基本姿勢としています。各計画の詳細については、お問い合わせください。

- 地域防災計画(災害対策基本法で定める自然災害等に対応)
- 国民保護計画(国民保護法で定められる武力攻撃事態等に対応)
- 危機管理計画(テロ・感染症・環境汚染等、その他の危機事態に対応)

### 大規模地震に備え住宅耐震診断を

近年、全国各地で頻発している「大規模地震」は、いつ、どこで起こっても不思議ではありません。市でも、「神奈川県西部地震」「東海地震」「南関東地震」などの影響を受けることが懸念されます。昭和56年5月以前に建築された戸建て住宅の耐震診断と耐震補強工事については、市の補助制度がありますので、ご相談ください。

危機管理基本方針に関すること=企画政策課(☎235・4790) 耐震診断等に関すること=都市計画課(☎235・9392)。